

堺自然ふれあいの森

ニュースレター 第38号

発行：平成31年3月 ふれあいの森パートナーズ(指定管理者)

イベント報告

●稲刈り体験 (平成30年10月6日)

6月に田植えをした田んぼでは、4ヶ月の間スクスクと育った稲が黄金色の穂を垂れ、収穫の時期をむかえました。参加者の子どもたちは、あまり使い慣れないカマに苦戦しながらも、保護者の方やいっちゃんクラブのメンバーに見守られながら刈り進み、はざ掛けができるようわらを使って束ねました。足元のぬかるみもありましたが、無事に収穫が終わりました。



●ふれあいの森収穫祭 (平成30年12月22日)

毎年恒例の「ふれあいの森収穫祭」では、10月に田んぼで収穫したもち米を使った「もちつきともち丸め」、森に植えるための苗木を作る「どんぐりの種まき」、森にくらす生きものについて楽しみながら学ぶ「森の学習」を体験していただきました。小雨が降るあいにくのお天気でしたが、59名もの方にご参加いただき、子どもたちの楽しげな声でにぎやかな一日となりました。



●第12回里山保全ボランティア養成講座

里山保全や市民ボランティア活動に関心のある方を対象に開催している本講座ですが、今回で12回目を迎えました。平成30年6月から11月まで月1回講座を実施し、20代から70代まで幅広く13名の方が受講されました。講座の内容は座学と実習で樹林整備活動、調査研究活動、クラフト活動、農作業活動といった各活動の体験や、大阪府立大学の増田昇教授や平井規央准教授による特別講義まで多岐にわ



たりました。「自然の中で体を動かしたい」、「定年退職したので人とつながりをもちたい」など受講者それぞれが様々な動機で受講されていましたが、参加者同士でもコミュニケーションを取りながら熱心に受講されていました。講座終了後は「今後も樹林管理をしていきたい」、「地元など、どこかの団体に活動できれば」といった意見もあり、実りの多い講座となりました。



職業体験の受け入れ

平成31年1月31日、2月1日の2日間、堺市立八田荘中学校の生徒(2年生)2人が、堺自然ふれあいの森に職業体験に来てくれました。1日目の午前の子宝幼稚園の工作プログラムの補助、散策ルートの落ち葉掻きなど、午後は写真コンテストの準備や広報誌の配架準備などの作業に取り組んでももらいました。2日目の午前には園路や階段の補修、倒木の処理など、午後は写真コンテストの展示を完成させてもらいました。慣れない作業の中には苦手なものや、今までやったことのないものもあったようですが、どの仕事にも真面目に2人で協力しながら取り組んでももらいました。「森の職員ってこんな仕事もしているんだ…」と、普段表には見えない我々職員の仕事の一面も知ってもらえたようです。2人が今後、自分の将来の進路を考える際に、今回の経験を活かしてもらえれば幸いです。



▲木道の落ち葉かき



▲伐倒木の処理



▶「森の館通信」の発送作業

台風21号を乗り越えて...

2018年9月4日に日本に上陸した台風21号は、最大風速55m/sという記録史上25年ぶりとなる非常に強い台風でした。この台風は日本全国で猛威をふるい、特に近畿地方では各地で甚大な被害が発生しました。堺自然ふれあいの森でも多くの倒木、幹折れ、倒木に伴う根上がりなどの被害を受け、園路や階段などの崩壊も多数発生しました。安全対策として、これまで臨時閉園措置や園路の通行止めなどを実施し、その間ご来園いただいた皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。台風発生からこれまで、市民ボランティア団体であるいっちゃんクラブを中心に復旧整備作業を進め、ようやく森の奥まで園路を歩いていただけるようになりました。

1 見はらし広場

枝や幹の折れた樹木はできるだけ再生するように最低限の伐採を心がけました



この先
通行できません



3 クロバイ育成区

根上りした倒木は伐採した後、チップ化した剪定枝を敷き詰めて補修しました



シイタケのほだ木エリアも倒木により一部崩れました



園路外のエリアにも処理の必要な倒木が多くありました

2 里みち～近みち分岐

倒木によって崩れた園路は土留めをして作り直しました



脚立を使って、高所で折れた枝を処理しました



倒れた木の根は6人がかりで取り除きました

皆で力を合わせてなんとかここまでのどり着きました。ですが、ご来園いただいた皆様にはまだまだご不便をおかけすることかと思えます。園路の脇には、剪定した枝を道際に積んでいる場所があります。尾根みちや見はらし広場など眺望を楽しむ場所では、折れた枝や倒れた樹木が視界に入るかもしれません。復旧作業の物音が野鳥観察を邪魔してしまうこともあるかもしれません。皆様に里山の風景を、そこでくらす生きもを楽しんでいただけるよう、これからも作業を続けてまいりますので、今後ご理解のほど、よろしくお願いいたします。



「新人館長とふれあいの森」

木下 裕美子（堺自然ふれあいの森 館長）

12月よりふれあいの森の館長となりました木下裕美子です。この森に来て8年が経ちました。森や田畑の維持管理作業は初めてでしたので、着任当初からいっちゃんクラブの方々には、農機具の使い方や木の倒し方、園内の動植物など、多くのことを教えていただきました。もちろん、現在も継続中です。昨年は台風被害で多くの木が被害を受け、園路も一部崩壊しましたが、いっちゃんクラブの方々を中心となり復旧作業を実施した結果、年内に復旧する事が出来ました。皆様の協力がなければ、園路開通には至らなかったと思います。当施設では、森の維持管理活動の他、「森の学校」として、年齢や興味に応じた自然体験や森の整備体験などのイベントを開催しています。この森も私もまだまだ道半ばです。この森の活動に多くの人に関わっていただき、皆様と一緒に後世へと繋がる森づくりを継続していけたらと考えています。



「ボランティアによる復旧作業の取り組み」

塩谷 寿生（NP法人いっちゃんクラブ 理事長）

台風21号の被害は大きく、園内のみちは、自由に散策できるまで3ヶ月かかり、その後も周囲の折れた幹や枝の整理を続けています。このような手作業には多くの人手が必要です。日頃から里山の保全整備を担っているボランティア活動団体に適した仕事だと考え、積極的に取り組んでいます。幹の上の方で折れてぶら下がった枝を伐るには、6メートルまで伸ばせる高枝伐りノコギリを使いますが、慣れないと重心が定まらず作業に苦労します。道の脇に積み上げた枝は、樹木粉碎機で碎きチップ状にします。散策路の修理に役立つほか、敷き詰めるとふわふわの歩きやすい道になります。多くの倒木を除去した後は、新しい森の再生をめざして実生苗を育て、移植し、自然の回復力に支えられて里山林を復元していきます。今回の被害により作業の手間はかなり増えましたが、みなさまに来ていただき、歩いていただき、喜んでいただく森をめざして、活動を続けています。



交通案内



● 電車・バスでのご来園

泉北高速鉄道「泉ヶ丘」駅 南側②番のりば(南海バス)
鉢ヶ峯行き「公園墓地北口」下車 約1.2km
※日曜・祝日は、堺公園墓地行き 直行便有り
「自然ふれあいの森前」下車 すぐ

● 車でのご来園

阪和自動車道 堺ICより泉北ニュータウン方面へ約7.5km
公共サイン(案内板)を目印に お越しください。

●●●●●●●● お問い合わせ ●●●●●●●●●●

堺自然ふれあいの森 森の館

〒590-0124 大阪府堺市南区畑1740番地
TEL 072-290-0800 FAX 072-290-0811
ホームページ <http://www.sakai-fureainomori.jp>



発行：堺自然ふれあいの森 ふれあいの森パートナーズ(指定管理者)
※ふれあいの森パートナーズは、株式会社生態計画研究所と
NPO法人いっちゃんクラブの連合体です。